佐渡市高校生議会質問・提案と回答〈要約版〉（令和3～8年度）

資料3

年度	高校名	質問・提案	回答	佐渡市総合計画との関連項目
R3	佐渡総合高校1	高齢者が安心して過ごせるよう段差の解消などを要望。また、バスの便数の少なさや運賃の高さを課題とし、若者も住みやすい環境作りへの対策を質問している。	バリアフリー・施設整備: 既存施設の修繕計画を制定しバリアフリー化を推進中。新庁舎等へのユニバーサルデザイン導入を進めている。 バス路線の維持・支援: 学生割引（学生ワイドフリー定期）や高齢者向け割引（1回200円）のほか、年約2億5,000万円の補助金を交付し路線を維持。乗合タクシーやデマンドバスの実証調査も実施している。	1－4「交通体系の充実」 2－3「高齢者福祉・介護の充実」 1－8「都市計画の推進」
R3	佐渡総合高校2	高齢化対策として島内外への魅力アピールや移住推進を提案。市民の意識向上策や、市が島外・市民向けに行っている情報発信・伝統文化伝承の取り組みについて質問している。	魅力発信・PR: SNSや特設サイトのほか、旅行会社やファンクラブ（佐渡のファン）と連携した情報発信を行っている。 佐渡学・教育: 「佐渡教育大綱」に基づき、出前授業やジオパーク学習などを通じて郷土愛や伝統文化（鬼太鼓や文弥人形芝居など）を伝える取り組みを実施中。	3－5「文化振興の推進」 4－8「移住定住の促進」 5－4「広報・広聴活動の推進」
R3	佐渡総合高校3	ポイ捨て防止のための啓発（テレビ・新聞・ポスター等）を提案。また、世代を超えた挨拶や「親切」な接し方が平和で暮らしやすいまちにつながるとして見解を尋ねている。	ポイ捨て・ゴミ対策: 監視員の配置や年間約5,000人が参加する一斉清掃「佐渡市一斉清掃（プラス）」を実施。啓発ポスターの募集やメディアでの周知を行っている。 コミュニケーション: 挨拶や親切な接し方を重視しており、市役所内でも毎朝の挨拶を徹底して丁寧な対応に努めている。	1－11「生活環境の整備」 5－1「市民参画と協働による地域づくりの推進」
R3	羽茂高校1	豊かな子育て支援制度の島外向けPR方法について質問。また、天候に左右されずに子どもが遊べる全天候型の屋内遊戯場の設置を提案している。	移住・子育て支援PR: 「移住交流推進課」を設置し、特設サイトやSNS等で独自の給食費補助や副食費無償化などの制度情報を分かりやすく発信している。 屋内遊戯場: 既存の児童館スペースを休日開放しているほか、子育て支援センターの活用や既存施設の有効利用・移設を検討中。	2－4「子育て支援の充実」 4－8「移住定住の促進」
R3	羽茂高校2	内容: 今後の火力発電の継続方針や再生可能エネルギー導入について質問。景観に配慮した住宅屋根への太陽光パネル設置や、冬の不照に対応する風力発電の併用を提案している。	脱炭素・再エネ推進: 2050年CO_2排出実質ゼロを目指し、環境省の補助事業を活用しながら再生可能エネルギーの導入拡大を進行中。 多様なエネルギー活用: 太陽光を中心に蓄電池や水素の活用、洋上風力発電等の検討も進めている。家庭や市有施設への太陽光設置補助など、導入に向けた支援策を整えている。	1－10「脱炭素・持続可能社会の推進
R4	佐渡高校	名所・旧跡を巡る「ロードバイクの聖地」化に向けた取り組みや「団三郎タヌキ」等の史跡活用について質問。あわせて、初心者が利用しやすいよう公衆トイレや自動販売機の設置など、インフラ整備計画を提案・確認している。	情報発信・PR: 観光サイト「さど観光ナビ」やSNSのほか、インフルエンサーやテレビ番組との連携を通じて魅力を発信中。 史跡活用: 新潟県と連携し、「佐渡金山ナビ」アプリ（5か国語対応の音声ガイド・CG映像）の拡充や、夜間イベントなどを実施。 ロードバイク環境: 電動アシスト自転車（Eバイク）の導入を進めており、トイレマップの整備や飲食店の情報発信、モデルコースを含めた総合マップの作成に取り組んでいる。	1－8「都市計画の推進」 1－11「生活環境の整備」 3－5「文化振興の推進」 4－5「観光の振興」

年度	高校名	質問・提案	回答	佐渡市総合計画との関連項目
R4	佐渡総合高校	離島特有の遠征費や移動のハンデを和らげる支援策について質問。解決策および経済波及効果をもたらす施策として、県大会などの大型スポーツ大会を佐渡市中心で毎年誘致・開催することを提案している。	離島ハンデへの支援：遠征費補助、全国大会出場者への激励金、指導者資格取得補助の3つの支援制度（令和4年度予算計約400万円）を用意。 県大会誘致について：宿泊施設や運営体制の面から島全体での大会誘致はハードルが高いものの、合宿誘致などを通じた交流や地域活性化に向けて検討を進めている。	3－1「子ども教育の推進」 3－4「スポーツの振興」
R4	羽茂高校	少子高齢化が進む中での移住者増加策として「小中学校の給食費無償化」を質問。また、農家と行政が連携した料理教室の開催や、規格外野菜の活用推進を提案している。	給食費無償化：多額の財源が必要なため全額無償化の実現は難しいが、物価高騰に伴う保護者負担の軽減措置（主食費の補助等）を実施中。 地産地消・規格外野菜：学校給食における地産地消率30％を目指して取り組みを推進中。小規模校や保育園を中心とした地域野菜の活用・食育プログラム、公民館活動等での規格外野菜活用を支援している。	2－4「子育て支援の充実」 4－1「農業の振興」 4－6「産業連携・販売戦略の推進」
R4	佐渡中等教育	買い物利用率が低下している商店街の再生に向けた市の取り組みを質問。空き家やシャッター街の既存建物を再利用し、多世代が交流できるフリースペース等の空間をつくることで、賑わいと地域発展を図るプランを提案している。	商店街の再生方針：河原田本町商店街に設けた「インキュベーションセンター」のように、空きスペースを活用してIT企業や学生が交流できる拠点づくりを推進。 フリースペース・交流の場：店舗跡地の公園化や駐車場の確保など、店舗主や地域住民が主体となって進める賑わいづくりの取り組みを市として支援していく。	1－8「都市計画の推進」 4－4「商工業の振興」 4－7「雇用機会・就労環境の充実」
R5	佐渡高校	路線減便に対する高齢者の通院・買物や高校生の通学足の確保策について質問。また、大雪による倒木・停電・断水などの災害対応、島外からの物資支援体制、市民の役割・高校生への支援要請について見解を尋ねている。	公共交通：高齢者や学生向けの割引（学生フリー定期や70歳以上1回200円等）で支援。さらに自動運転やMaaSを活用した「地域公共交通計画」の策定を進め、自家用有償運送やデマンド交通との連携を図っている。 雪害・防災：伐採や間伐による停電防止対策、電気自動車を活用した避難所への電源供給体制の構築、両津港の岸壁耐震化工事や広域防災協定（みなとネットワーク等）の活用を進めている。	1－1「防災・減災機能の強化」 1－4「交通体系の充実」 1－7「下水道施設の整備」 1－10「脱炭素・持続可能社会の推進」
R5	佐渡総合高校	豪雪時の倒木被害を防ぐため、道路周辺の樹木管理（市による委託管理等）を提案。また、観光スポット（岩首昇竜棚田など）周辺の道路拡幅や土砂崩れ対策の取り組みについて質問している	樹木管理・林業：私有地の樹木を市が一括委託管理することは困難だが、森林組合等と連携した「佐渡産材利用促進事業」により林業の担い手育成や需要創出を図っている。 道路整備：国道350号や主要地方道佐渡一周期線の整備を新潟県に働きかけている。あわせて、観光地周辺の道路拡幅や自転車通行の安全確保、EV充電設備の充実を検討している。	1－5「道路施設等整備の推進」 4－3「林業の振興」
R5	羽茂高校	観光PRのデジタル化や島民向け掲示板アプリの開発を提案。「佐渡島の金山」の世界遺産登録を見据え、交通・宿泊キャパシティの不足に対する市の方針を質問している。	観光PR・アプリ：「さど観光ナビ」等の発信に加え、リアルタイムな情報共有のためのデータ収集・分析を強化中。市民向けにはLINEや公式アプリ、公式SNSを活用しており、双方向ツール（チャットボット等）の導入を調査研究中。 世界遺産対応：混雑や宿・交通のキャパシティ不足に対し、データに基づいた効果的な情報発信とおもてなし体制の強化を進めている。	1－8「都市計画の推進」 4－5「観光の振興」 5－4「広報・公聴活動の推進」
R5	佐渡中等教育学校	倒竹・停電の原因となる放置竹林の処理状況を質問。伐採した竹を食用竹炭や飲食店向け食器・小物などに活用し、得られた利益を竹林整備費用に充てる持続可能なサイクルを提案している。	竹林処理・活用：大雪で発生した倒竹はチップ化して防草剤等にリサイクル中。 商品化への課題：竹炭や竹細工、バイオマス利用などは加工コストや集荷・販売面の課題があるため、民間企業や大学と連携しながら高付加価値な活用方法を研究している。	1－9「自然環境の保全」 1－10「脱炭素・持続可能社会の推進」 4－3「林業の振興」
R5	明誠高校	高齢者のやりがいと健康維持のための「シルバー起業家」育成を提案。あわせて、小中学校からの起業家教育の導入や、若者の島内定住・Uターンを促す教育のあり方について市長・教育長へ質問している。	シルバー起業家：年齢制限のない創業支援制度（店舗改修補助等）を設けており、すでに65歳以上の起業事例もある。 キャリア教育・若者育成：探究学習などを通じて小中学校からの起業家精神・社会貢献意識を育む教育を推進。進学等で島を離れた後も佐渡に関わり続けられる「関係人口」の育成や、魅力ある学校環境づくりに力を入れている。	2－3「高齢者福祉・介護の充実」 3－1「子ども教育の推進」 4－7「雇用機会・就労環境の充実」 4－8「移住定住の促進」
R6	佐渡高校	人口減少の抑制と市のPRにつながる「企業誘致」の具体策について質問。また、子育てしやすい環境整備のため、歳出予算を見直して不必要な経費を削減できないか提案・確認している。	企業誘致：物流コスト等の課題から工場誘致は難しい一方、IT企業の誘致やシェアオフィス等の拠点を整備中。最大級の補助制度や奨励策を用意して創業・進出を支援している。 子育て支援：専門職による寄り添い支援、子育て交流ひろばの開設、出産お祝い金（最大190万円）や保育料・医療費助成のほか、放課後児童クラブの充実に予算を投じている。	2－4「子育て支援の充実」 4－4「商工業の振興」 4－7「雇用機会・就労環境の充実」

年度	高校名	質問・提案	回答	佐渡市総合計画との関連項目
R6	佐渡総合高校	減便や運賃値上げが続くバス路線の現状を踏まえ、予約運行の改善点や自家用車・スクールバス等の活用を含む地域交通の将来計画を質問。運転手不足対策（大型二種免許取得補助など）や、佐渡汽船の運航計画と連動したバスダイヤの維持・民間連携策について尋ねている。	バス減便と交通網の維持: 運転手不足による路線バス減便に対し、無料コミュニティバスの運行や二次交通の実証調査を実施。佐渡MaaS検討会を立ち上げ、行政・事業者・市民が連携した持続可能な交通網づくりを進めている。 人手不足・資格取得支援: 運転手不足対策として大型二種免許の取得補助を継続するほか、他分野の資格取得費用も補助中。タクシー不足地域での「自家用有償旅客運送（佐渡版ライドシェア等）」の実証・検討も推進している。	1－4「交通体系の充実」 4－7「雇用機会・就労環境の充実」 5－1「市民参画と協働による地域づくりの推進」
R6	羽茂高校	病院閉院等に伴う佐渡病院への患者集中と床数減少を踏まえ、受け入れ体制や「医療と介護の連携」の具体策を質問。また、通院が困難な高齢者向けに「通院用バスの運行」および「リモート診療の導入」を提案している。	医療・介護連携: 急性期病床の確保とともに、ICTを活用した医療と介護の情報連携・マッチングシステムを開発中。介護職員の負担軽減に向け、オンライン診療の導入等を検討している。 通院支援: 佐渡総合病院へのアクセス確保のためバス路線延伸を行うとともに、リモート診療の早期実現に向けた取組を進めている。	1－4「交通体系の充実」 2－1「地域医療の充実」 2－6「地域福祉の充実」
R6	佐渡中等教育学校	海岸漂着物を含む島内のゴミ問題への市の基本方針を質問。対策として、佐渡市内の学生が年1回以上公的行事としてゴミ拾いを行い、回収量を可視化・データ化することで地域愛の醸成や景観保全につなげる取り組みを提案している。	清掃活動と環境施策: 観光客向けサステナブルツーリズムの導入や、リデュース・リユース・リサイクルの3R（段ボールコンポストやペットボトル水平リサイクル）を推進。 学校でのゴミ拾い行事: 各地区でのクリーンアップ作戦など市民ボランティア活動の回数・参加者は増加傾向にある。学生の参加は地域の意識向上や景観保全に大きな効果があるとして協力・推進を呼びかけている	1－9「自然環境の保全」 1－10「脱炭素・持続可能社会の推進」 1－11「生活環境の整備」
R6	明誠高校	出生率向上のための「相談体制・互助の仕組みづくり」について質問。また、高校卒業後の離島率（92%）を低減し若者を呼び込む施策として、学費負担の少ない「市営通信制大学の設置」を提案し、Uターンや起業家育成につなげるアイデアを提示している。	通信制大学の設置: 新たな大学を自前で設置する予定はないが、放送大学等と連携して中央図書館等で学習できる環境を整備済み。また、佐渡にUターンして就労した際の奨学金返還補助制度を導入している。 若者支援・地域活動: 佐渡で生き生きと働く・暮らす若者の情報を発信するとともに、市民主体の地域づくり活動（真野の竹イベント等）に各種補助金を交付して支援している。	2－4「子育て支援の充実」 3－1「子ども教育の推進」 4－8「移住定住の促進」
R7	佐渡高校	少子化が進む中での島内小中学校間の交流機会増加による佐渡の魅力再発見策について質問。また、猛暑や寒さから児童生徒を守るため、体育館や特別教室へのエアコン設置を含めた十分な学校設備の改修・環境整備を求めている。	学校間交流: 小中学校での交流授業や地域の観光ボランティアガイド活動、ICTを活用した遠隔交流、地域の大人と連携した部活動（エンジョイ型）などを通じ、郷土愛を育む教育を推進中。 改修・エアコン設置: 建物の長寿命化計画に基づいて計画的に工事を実施。小学校教室へのエアコン設置は完了し、今後は中学校や特別教室へ順次拡大予定。体育館についてはコストや断熱構造の課題があるため、スポットクーラー等で対応しつつ整備を検討している。	3－1「子ども教育の推進」 3－2「学校教育環境の整備」 5－1「市民参画と協働による地域づくりの推進」
R7	佐渡総合高校	世界遺産登録による観光客増に伴うゴミの増加に対し、減量化や海岸清掃、海洋プラスチック汚染対策の現状と今後の強化策を質問。入島税の徴収検討状況や環境保全活動への活用方針についても尋ねている。	ゴミ減量・啓発: ボランティア清掃のほか、エコツアーやサステナブルツーリズムを通じた意識啓発を実施。清掃活動参加者への「ボランティア証明書」デジタル発行なども開始。 入島税・ゴミ箱: 入島税は使い道や観光関係者との議論を重ねて検討中。ゴミ箱は管理面から基本的に設置しない方針だが、マイバッグ・エコバッグの持参率100%を目指して啓発を継続中。	1－9「自然環境の保全」 1－11「生活環境の整備」 3－5「文化振興の推進」 4－5「観光の振興」
R7	羽茂高校	防犯や生活上の安全確保に向け、街灯の設置計画や設置要請に対する達成率について質問。さらに、省エネ・停電時対策として「太陽光パネル一体型街灯」の導入を提案している。	街灯の設置とLED化: 防犯灯（約9,298基）および道路照明灯（約1,707基）を設置基準に基づき整備。防犯灯のLED化率は97%、道路照明灯は68%まで進行しており、100%を目指して更新中。 太陽光街灯: 塩害や冬場の積雪による故障リスクがあるため現在は導入を見送り、本庁舎等のZEB化（省エネ・再エネ活用）を推進している。	1－1「防災機能の強化」 1－3「交通安全・防犯対策の推進」 1－10「脱炭素・持続可能社会の推進」
R7	佐渡中等教育学校	若い世代の防災意識を高める市の取り組みを尋ねるとともに、身近な風景写真等を活用した「VR災害体験コンテンツ」を生徒自身が制作・体験する新しい防災教育プログラムを提案している。	防災啓発: 定期的な避難訓練や全世帯へのハザードマップ配布を実施。 VR/AR技術の活用: 津波や河川洪水の可視化技術（VR/AR）は有効と認識しており、赤泊地区や新穂地区などで地元小中学生を対象に疑似体験を実施済み。今後は民間事例も参考にしながら成長段階に応じた防災教育を検討していく。	1－1「防災機能の強化」 3－1「子ども教育の推進」
R7	明誠高校	高齢者の社会活動や貢献度を「デジタルバッジ」として可視化し、生きがいや幸福感を高める仕組みを提案。市民グループ「しまびと元気応援団」等の活動に導入し、佐渡全体を「未来を試す実験場（リビングラボ）」として位置づけるアイデアを提示している。	デジタルバッジの評価: 高齢者の社会貢献やボランティア活動を可視化し、自己肯定感やモチベーションを高める手法として有効性を認めている。 今後の検討: 高齢者のバッジ活用方法や外部評価の仕組みづくりに課題があるため、「しまびと元気応援団」などの地域活動への導入可能性を含め、引き続き検討・研究を進める。	2－3「高齢者福祉・介護の充実」 5－1「市民参画と協働による地域づくりの推進」

年度	高校名	質問・提案	回答	佐渡市総合計画との関連項目
R8	佐渡高校	他自治体との平均賃金格差を減らす就業・所得支援の取り組みについて質問。また、保育・教育負担のさらなる無償化・軽減、ならびに路線バス増便やレンタカー活用等による「島内交通の活性化」を提案している。	所得・雇用・企業誘致: 個人の給与への直接補助ではなく、企業の経済活動活性化と賃上げ支援を継続中。「働く・暮らし」を一体化させたインキュベーションセンター等の拠点整備により若者の雇用の場を拡充している。 地域交通・レンタカー:「佐渡市地域公共交通計画」に基づき、デマンド交通や佐渡版ライドシェアのほか、相川地区での新循環バス実証運行を実施。レンタカーは冬季の稼働率低下が課題だが、市民の日常・一時的移動での利用促進等で安定運営を図る。 子育て支援: 独自の「出産ワクワク応援ギフト(10万円)」や「子どもが元気な佐渡が島事業出産祝い金(第3子以降最大200万円)」を支給。保育料無償化の拡大や医療費助成、学校給食費の保護者負担軽減(市独自支援による月額減額など)を実施している。	2－4「子育て支援の充実」 4－7「雇用機会・就労環境の充実」 4－8「移住定住の促進」
R8	佐渡総合高校	進学や就職で島を離れた若者が将来戻りたくなる施策や、地元企業とのインターンシップ・職場体験の充実策を質問。さらに、高校生と市長・市職員が定期的に意見交換できる場を設け、市政に若者の声を反映させる組みを提案している。	若者・Uターン施策:「ふるさとつながるプロジェクト」や学生応援ギフト事業により、島外進学・就職後も佐渡とのつながりを維持。就職情報サイト「COMPASSコンパス」でインターンシップや企業の魅力を発信している。 意見交換の場: 高校生意見交換の場づくりを肯定的に評価しており、高校生議会に加え、市長・市職員と高校生が直接対話できる仕組みづくりについて先生方と協議を進める。	4－7「雇用機会・就労環境の充実」 4－8「移住定住の促進」 5－1「市民参画と協働による地域づくりの推進」 5－4「広報・広聴活動の推進」
R8	羽茂高校	中高生の市政への関心の低さ(市長名認知率約50%等)の現状を受け、市の受け止めを質問。中高生が楽しく読める「中高生向け市民だより」を学校で紙面配布し、若者の政治関心や郷土愛を高める策を提案している。	若者の関心向上: アンケート結果を真摯に受け止め、若者層へ届く分かりやすい情報発信の必要性を認識。 市民だよりの学校配布:「学校で中高生向け市民だよりを配布する」提案を大変好評とし、高校生記者の活動など若い視点を取り入れた紙面づくりや配布に向けて前向きに協力・検討していく。	3－1「子ども教育の推進」 5－4「広報・広聴活動の推進」
R8	佐渡中等教育学校	世界遺産登録後の観光客増を見据え、既存の自然資源を生かしたマリンアクティビティ(フライボード等)の導入を提案。また、「食事難民」防止のため、混雑回避や路地裏の名店を網羅した多言語対応の「飲食店案内アプリ・マップ」整備を提案している。	マリンアクティビティ: SUPなどの普及が進む一方、フライボード等は導入・安全面・季節性の課題があるため事業者へのヒアリング等を通じ研究を進める。 飲食店情報・グルメ対応:「さど観光ナビ」で約150店舗、民間等を含め約290店舗の飲食店情報を発信中。混雑回避や予約対応を含めた情報発信の質の向上・受入態勢の構築を飲食店組合と連携して推進する。	4－5「観光の振興」
R8	明誠高校	島内の専門学校や通信制大学(放送大学等)を地域の学びの中核インフラと位置づけ、進学・就職後も島と関わり続けられる「関係人口・交流人口」の創出を提案。若者を島に留めるだけでなく、若者同士が刺激し合い成長できる「校舎のない学びの場」づくりを求めている	若者の成長環境と連携: 伝統文化や環境福祉の専門学校、通信制大学などを「学びの場・地域の中核インフラ」として重要視。 関係人口の創出: 島内外の学生が佐渡をフィールドとして学び、地域とつながり続けられる環境づくりを推進。「将来戻りたい」と思えるまちを目指し、若い世代の参画やネットワーク構築を支援していく。	3－1「子ども教育の推進」 3－3「生涯学習の充実」 4－8「移住定住の促進」